

世界の人々と水

長野県上田染谷丘高校 1年6組 村田紗和

この課題に関わるSDGsの番号



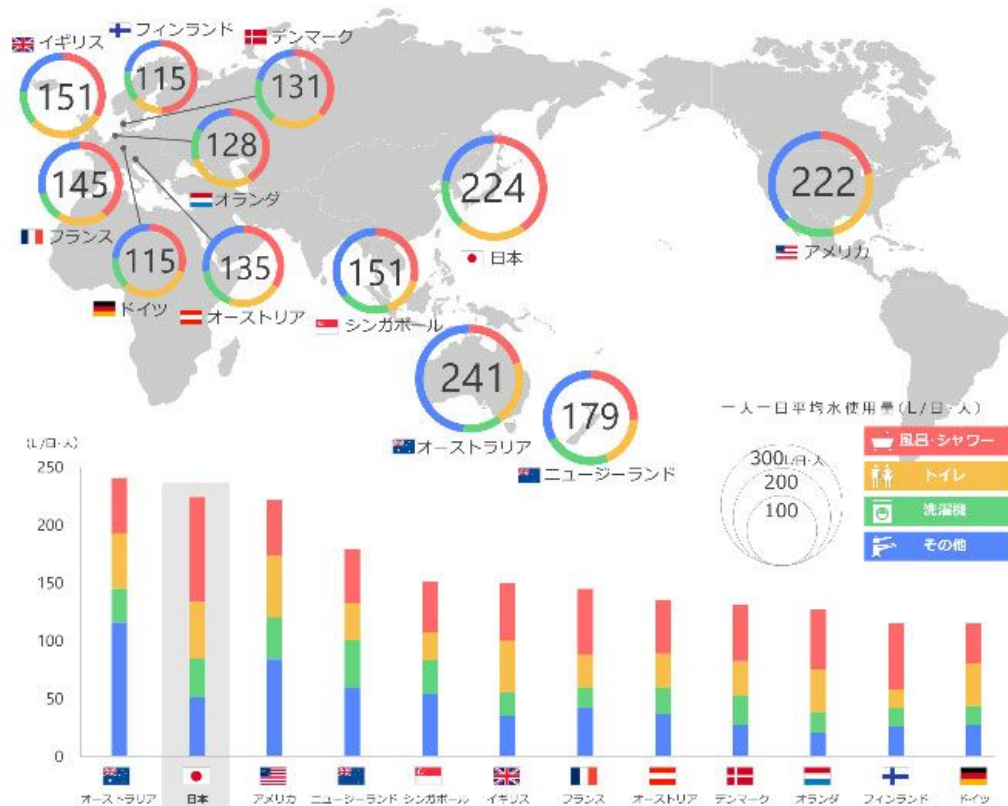
テーマ設定の理由

アフリカの地域の人々は、毎日長い時間をかけて川の水を汲みに行っていることを知り、日本の豊かさを改めて感じたとともに、今世界中で、どのくらいの人々が、安全な水を手に入れるのが大変なのかまた、どうすれば改善されていくのか気になったため。自分にできること

現状

国際連合広報センターによると2020年において、世界で安全に管理された飲料水を利用できない人が20億(26%)安全に管理された衛生施設を利用できない人が36億(46%)基本的な手洗い施設がない人が23億(29%)と報告されている。更に日本でも水道普及率は、約98%であり、残り2%の約230万人が水道を利用できない状態です。また、トイレの普及率(下水道普及率)は約80%です。残りの20%の地域では、くみ取り式のトイレを使用している。

現状



※データの信頼性は各国で異なり、日本とニュージーランドは除排水の検閲データがないことから日本の実数値、ニュージーランドはオークランドのデータを引用しました。
 出典：水電気熱研究所「水電気熱研究所」(水電気熱研究所)「水電気熱研究所」

課題

河川や小沼など、水質汚染、水源汚染

特に免疫の弱い子どもたちは不衛生な水により下痢症を起こし、脱水症状に陥ってしまうことも多くあります。重大な病気に発展したり、最悪な場合は死に至ることもあります。それだけ水質汚濁や水源汚染は様々な地域で問題となっている。

解決策

ただ水を衛生的にするだけでなく下水施設や衛生施設を利用しやすくしたり、安全に水を管理する仕組みを整えたりする必要がある。また水の利用効率をアップさせたり、水質に関係する生態系の保護・回復を行ったりすることも重要。

NPO・NGOは、安全な水を供給できる設備や衛生的なトイレを設置する工夫を行っている。しかし、まだまだ活動資金や人材が不足しているそこで私達が募金などに協力することが大事

10代からの提言

一人ひとりが、募金活動に協力することで、下水施設、衛生施設が増え、安全な水を世界中の人々が利用できるようになると思う。世界中の人が安全な水を利用できるようになるのは、簡単なことではないが、みんなが協力しないと何も変わらない、しかし、みんなが協力すればSDGsの6番だけではなく、飢餓の問題である2番や健康福祉の問題である3番も改善されてくるのではないかと思います。またそれには、より多くの人に今の現状を知って貰う必要があると思います。

感想

SDGsの問題は、今まで授業などでよく聞いてきて様々な問題について学んできたが今回取り組んだ6番の水、トイレの問題はあまり詳しく学んだことがなかったので、この問題について書いてみた、世界には思っているよりも多くきれいな水、トイレを利用できない人がいた
自分の住んでいる環境の良さに、感謝する必要があると思う。そして、SDGsの目標について自分ごととして考え、募金活動など積極的に、参加したいと改めて思えた。